

事業計画書

事業名	ぬまづろう乳幼児手話獲得支援事業の実施に向けた研修活動
実施場所	サンウェルぬまづ ほか
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2021年 4月 1日 ～ 2022年 3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

この事業をすでに実施している大阪の視察・講演会・学習会の開催を通し、ろう乳幼児が手話を獲得できるよう手話獲得支援の理念・ノウハウを習得する。又開催する為に必要なアドバイザー(臨床心理士)・保健師・保育士などの人材を確保し、事業の必要性と、ろう乳幼児に対する理解を共有し開催に向けて研修、活動をする。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか(事業を行うきっかけ(地域の問題点や課題、社会背景など)や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか)を記載して下さい。

手話は独自の文法構造を持つ言語であり、ろう者にとって手話の獲得は心理発達や人間形成の基盤を築く、生きる力といえる大切な言語である。しかしろう乳幼児やその親や兄弟が手話を獲得していくための環境を支える制度や仕組みは全くない状態である。「聞く、話す、考える」という聞こえる子どもが自然に日本語を獲得できるのと同じように、聞こえない子どもも「見て分かる、伝えられる、考えられる」力を養いコミュニケーションを可能とする手話を獲得できる環境が大切であると考え。ろう乳幼児とその保護者が言語として、手話を選択しようとするとき、それを支援する環境づくりとして「ろう乳幼児手話獲得支援事業」を実施しようとして活動を始めた。

今年度コロナ禍だったが、6月サンウェルぬまづ開館で活動を始めた。大阪の「ろう乳幼児手話獲得支援事業」に、立ち上げから関わっている神戸大学大学院の河崎佳子氏による講演会を開催した。ろう乳幼児にとって手話獲得の大切さ、支援する環境づくりなど事業の必要性を学んだ。又すでに事業を行っている大阪の視察を計画した。スタッフの打合せ、流れ、終了後のミーティングなどを見学し、運営方法・内容・環境づくり・相談支援・乳幼児との関わり方の手法を学び活動のイメージを具体化できたと同時に、この事業の理念の深さを感じ取ることができた。講演会、視察をすることでネットワークができ、大学教授がつくる研究機関とつながることができ、この関係を深め研修活動を進めていきたい。12月再度コロナ感染拡大で視察は3人でとどまった為、終息後に再開する。保健師2人・保育士1人に後援会に参加してもらい事業の内容と必要性を理解してもらった。新たにこの事業に必要なアドバイザー(臨床心理士)を確保し、事業開催のため共に研修し、事業の内容を検討し具体化し啓蒙・啓発活動を行い次年度以降の事業化を目指す。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。

2021年	4月	研修会①スタッフ	
	5月	研修会②スタッフ+アドバイザー(臨床心理士)	
	6月	研修会③大阪に視察	
	7月	研修会④大阪に視察	
	8月	研修会⑤スタッフ+外部スタッフ	
	9月	研修会⑥講演会	
	10月	研修会⑦スタッフ+外部スタッフ	
	11月	研修会⑧スタッフ	
	12月	研修会⑨スタッフ+外部スタッフ	
	2022年	1月	研修会⑩フォーラム参加 事業内容検討
		2月	研修会⑪スタッフ+外部スタッフ 講演会 事業チラシ・パンフレット検討
		3月	研修会⑫スタッフ+外部スタッフ 事業チラシ・パンフレット作成

◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。</p> <p>ろう乳幼児手話獲得支援事業により、ろう乳幼児にとって「母語」となる手話を乳幼児期から習うことで思考力の発達にも良い影響が期待できる。保護者同士の交流ができ悩みを共有し子育ての相談ができる。ろう乳幼児と両親、聞こえる兄弟姉妹が手話や身振りを使って伝わったという実感がもてる。又保護者が安心して子どもの聴力障害を受け入れ、手話コミュニケーションを親子で体験することにより、愛着形成が確かなものになる。</p>			
成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。	指標の検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。
	研修会 12回・講演会 2回以上		開催回数をカウント

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。</p> <p>※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>全日本ろうあ連盟は、2019年11月の理事会で「ろう乳幼児支援対策チーム」の発足を決めた。沼津市手話言語条例が施行され、その意義に基づき「ろう乳幼児手話獲得支援事業」を実施することで、共生社会の実現に近づく。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の現状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>「手話は言語である」と改正障害者基本法に明記され、沼津市は2020年4月「沼津市手話言語条例」が施行した。しかし現在沼津市には、ろう乳幼児とその保護者、兄弟が手話を獲得していくための環境や制度を支える仕組みは全くない状態である。この事業を実施することで、手話を獲得する機会を確保することができると同時に、市民に手話が日本語と同じ言語であることであることが認識され、聞こえない事が理解されることで、聞こえない人への配慮や支援ができるようになり、聞こえない人が安心して豊かに暮らせる社会になる。延いては全ての人々が豊かに暮らせる地域(社会)の実現につながる。</p>

<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <p>手話獲得支援事業の事業化自体があまり事例がない取り組みである。今後ろう者やその関係団体だけでなく、子育て支援に関わる保健師や保育士などに協力を求め共に研修することで、手話獲得の必要性にとどまらず、「聞こえないこと」についても広く伝えることができ、共生社会の実現につながる。又この事業自体が研究場所となっていく。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自主的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <p>地域社会での人々の様々な「暮らす」「学ぶ」「働く」といった生活場面で手話で学び、手話を学び、手話を使う事により、地域住民と関わることができる。それにより手話は日本語と同じ言語であることが認められ、尊重される。手話である言葉が尊重されるということは、ろう者自身が尊重されることにつながり、地域で聞こえないことの理解と手話が広まっていく。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は含致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <p>今年度ネットワークや大学教授がつくる研究機関とのつながりをもつことができたので、この関係を深め、学習会、研修会、視察などの活動を進め、スキルを習得し理念を構築する。この事業に必要な、アドバイザー（臨床心理士）・保健師・保育士などの地域の資源を取り込み共に研修をし、事業の意義、大切さを共有し、沼津市独自の事業を展開する。</p>
<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>これまで、沼津市手話言語条例制定に向け精力的に取り組んできた。条例が制定施行され「ろう乳幼児支援事業」実現の必要性を強く感じた。子どもの手話獲得と保護者の手話習得の支援、実際にロールモデルとの出会いによって、子どもの健全なアイデンティティ形成をうながす。又保護者が安心して聴力障害を受け入れ、手話コミュニケーションを親子で体験し、愛着形成が確かなものになると考え、必ずこの事業を実現したいと熱意をもって取り組んでいる。</p>

◎次年度以降の活動予定

<p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>今年度コロナ感染拡大のため、すでに事業を開催している大阪への視察が3人とどまった。次年度も視察を継続し、この事業の理念と手話獲得のための手法を学ぶ。又今年度つながったネットワークや大学教授がつくる研究機関との関わりを深め、研修を進めていく。</p> <p>今年度学んだことを基礎に、ろう児が乳幼児期から家族と共に手話を自然に身に着けられるような支援方法取得の研修を重ね、さらに事業開催に向け必要なアドバイザー（臨床心理士）・現在協力を得ている保健師・保育士などと共に研修し事業の必要性を共有し、保健師・保育士同士のつながりを広める。「ろう乳幼児支援事業」の内容を具体的に検討し、チラシ・パンフレットを作成し、保健師を通し配布したり、啓蒙・啓発活動を行い、次年度以降の沼津市での事業化を目標に活動をする。</p>

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

<p>※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい</p>
--

大阪の「ろう乳幼児手話獲得支援事業」に立ち上げから関りをもつ神戸大学大学院教授、河崎佳子氏によるリモート講演会を、沼津市聴覚障害者の会・手話サークル若葉友の会の会員に呼びかけ開催した。参加者からは、聞こえない子ども達が母語として手話を獲得することは、心の育成・成長・安心につながることを感じた。幼児期に手話を獲得することの意味・目的を具体的に聞け整理できた。実際の支援事業の子ども達の映像から雰囲気伝わってきたなどなど、事業の必要性が共有でき、沼津市にもこの事業を実現したいと参加者全員から声が湧きあがった。

又すでに支援事業を行っている大阪に視察に行き、運営方針・内容・環境づくり・相談支援・乳幼児との関わり方の手法を学ぶと同時に、事業の理念の深さを感じ取ることができた。講演会、視察を通しネットワークができ大学教授がつくる研究機関とつながることができたのは、今後研修をする上で大きな成果であった。しかしコロナ感染拡大のためメンバー全員の視察はできなかった。今後も視察、研修を重ね、さらに事業開催に向け、新たにアドバイザー（臨床心理士）・現在協力を得ている保健師・保育士などと共に研修・学習をし事業の必要性を共有する。又事業開催実現のため、事業内容・進め方などを検討しチラシ・パンフレットを作成し啓蒙、啓発活動を行うなど、具体的な取り組みに発展させる。

◎特に高い公益性を有することの説明（ハード部門のみ）

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。